

人と牛とのスキンシップという点では、若い従業員には、時間があれば牛の顔を見て来いと言っています。牛とどのように接しているかです。優しく育てることを経営者は明確にしなければなりません。

牛も幼少期の飼いが影響します。接触を多くし、手厚く世話をしていく、そうすると牛はストレスが少なく育ち、成牛になってしっかり乳を出してくれたり、いい子牛を産んでくれたりします。

## 汚水の処理は

人工湿地での汚水処理は西日本では初めての方法です。

自然の力を借りて浄化します。今は碎石しか見えませんが、1、2年たつとヨシが生えてきて緑の湿地になります。地下浸透しないように、底に遮水シートやマットを敷いて、その上に碎石の層が1mくらいあります。



汚水を浄化する人工湿地

## 今後の経営は

大規模化するということは、作業機械を買わなければなりません。3軒が生活できて、従業員に給料が支払え、なお、負債を返しながら、酪農を続けることが必要です。

牛の導入資金は5年で償還できればと考えています。それを早く償還し切れれば先が見えてくると思います。

経営には、餌の価格と乳価の推移、人件費の割合をどうみるのかも関係してきます。不安材料は餌の価格と乳価です。

## TPPの影響は

心配はしています。ただ、我々は8、9割を生乳として出しているので、乳製品や肉製品ほどの影響はないのかなと思っています。

この事業自体がTPP対策、畜産・酪農収益力強化特別対策として組まれたものです。大規模化しながら、コストカットをしていくというねらいがあります。

施設をつくったからこれで終わりではなくて、国産品を守ってもらうために、行政の援助は今後も継続してほしいです。

## 消費者のみなさんに一言

大山乳業と一緒にあって、消費者との交流をはかっていきます。

ただ、見学者がバスでどっと来られたら、中に入らず上から見てもらうことになります。一番怖いのは

口蹄疫などの伝染病ですから。

消費者のみなさんにはおいしい牛乳を提供したいです。良質の乳を出すために、牛にストレスをかけないようになっています。乳牛は暑さに弱いので、夏でも涼しくなるように屋根には断熱材を入れていきます。それによって、夏場でもおいしい乳を出してくれるのです。



大規模化にかかせない大型機械

## 取材を終えて

大山山麓の萩原に令和元年10月下旬に竣工したばかりの酪農法人。

規模の大きさだけでなく、最新鋭の施設・設備にも驚かされた。乳牛にストレスがかからない畜舎や回転式の搾乳設備、環境に配慮した汚水浄化の人工湿地。人と牛との触れ合い。

消費者においておいしい牛乳を提供したいという生産者の原点をみた。